

告される」は、全群で、20・36%台と特に低率であった。

考察

(1) 来院者の HIV 抗体陽性率について

厚生労働科学研究費補助金のエイズ対策研究事業におけるSTDクリニック来院者の HIV 抗体陽性率のモニタリングは、平成 15 年度から開始されているが、平成 15-17 年度の 3 年間における HIV 抗体陽性率は、男性外来患者 0.34% (587 例中 2 例) [2]、女性外来患者および女性セックスワーカーでは 0.07% (2672 例中 2 例) と低率であった。しかし、平成 18-20 年度には、女性外来患者および女性セックスワーカーでは陽性者を認めなかったが、男性外来患者では 1.6% (623 例中 10 例) と上昇した [3]。その後、21 年度は 1.5% (4/263)、22 年度は 1.6% (2/122)、23 年度、24 年度は、其々 0.87% (2/231)、0.58% (4/685) と、低下しているようにも見えたが、25 年度 0.93% (3/322)、26 年度 3.33% (6/180) と再び上昇した。27 年度は陽性者を認めなかったが、参加医療機関が限られており、分子が小さいため、統計学的に有意な動向とは言えない。特に 24 年度に低率となったのは、参加医療機関がそれまでの関東中心から全国に拡大したため、これまでのデータとは直接に比較することはできない。しかし、この陽性率は、27 年度を除いて、少なくとも保健所等で行われている公的な HIV 検査における HIV 抗体陽性率 (保健所 0.3%) [4] を大きく上回るものであることに変わりはなく、STD クリニックが、HIV 流行の重要なセンチネルサイトであり、かつ潜在する HIV 感染者を掘り起こし、治療と予防につなげる上で重要な場所であるというこれまでの結論が、HIV 無料検査の高いニーズからも、改めて確認された。

(2) アンケート調査の結果について

本年度も STD クリニック来院者の HIV 検査ニーズと HIV 関連知識の普及状況を調べるためのアンケート調査を実施した。これまでの調査で、STD クリニック受診者の無料 HIV 検査ニーズが極めて高いことを示してきたが、本年度も、希望率は、90% 近くと極めて高く、STD クリニック受診者の中では無料検査希望が依然として強いことが示された。わが国の HIV 検査体制は、保健所に大きく依存しているが、保健所等における公的 HIV 検査は、2008 年をピークに低下し、かつ AIDS 患者報告数は、多剤併用療法が利用できる先進国としては異例に、多剤併用療法開発後も減少していない。これは、現行の HIV 検査体制が不十分で早期発見・治療に結びついていないことを示しており、こうした現状が続けば、HIV 流行の潜在的な拡大が続き、また、感染者にとっても、AIDS を発症してから発見されるという予後の観点から望ましくない事態が続くことになる。2010 年度の調査で、保健所の平日検査や夜間休日検査を希望する者 STD クリニック受診者は、概ね 10% 未満と少ないことが判明しており、保健所検査では、高リスク層を効率的に把握できない可能性が高い。保健所依存体制を脱却し、STD クリニックを、高リスク層に効率的にアクセスできる新たな HIV 検査機会として、行政的な位置づけを行うことが期待される。40% 前後の成人が HIV 検査を受け、年間 HIV 検査数が 1600 万件から 2200 万件に及ぶと推定されている米国では、HIV 検査は、44% が民間医療機関、22% が病院等で行われており、公的なクリニックでの検査は 9% に過ぎない [5]。我が国も、保健所等を中心とする検査体制の見直しが急務である。

また、本年度も、HIV 関連知識に関する質問を導入したが、STD 患者にとって最も重要な情報である「性感染症(性病)にかかっていると、エイズウイルスに感染しやすい」という知識が、5-6 割程度に

しか普及していないこと、保健所における無料匿名検査の情報が、まだ十分に普及していないことが示唆され、STD クリニックを拠点とした普及啓発の意義を示唆するものとなった。

引用文献

1. エイズ発生動向委員会. 平成 23 年エイズ発生動向年報
2. 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV 感染症の動向と予防モデルの開発・普及に関する社会疫学的研究」平成 15 年度～17 年度総合報告書
3. 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV 感染の動向と影響及び政策のモニタリングに関する研究」平成 18・20 年度総合研究報告書
4. 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業 HIV 検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究平成 21 年度報告書
5. 米国疾病管理予防センターWebサイト
(http://www.cdc.gov/hiv/topics/testing/resources/slidesets/pdf/testing_healthcare.pdf
) 平成 24 年 5 月 8 日アクセス

表 1. アンケート調査参加者の属性等

項目	男性外来患者 (n=152)		女性外来患者 (n=163)		セックスワーカー (n=235)		合計 (n=550)		P値	
	n	%	n	%	n	%	n	%		
年齢	<30歳	36	23.7	78	47.9	127	54.0	241	43.8	0.000
	30-39歳	49	32.2	36	22.1	67	28.5	152	27.6	
	40-49歳	38	25.0	38	23.3	32	13.6	108	19.6	
	50歳以上	29	19.1	11	6.7	9	3.8	49	8.9	
	合計	152	100.0	163	100.0	235	99.9	550	99.9	
性感染症罹患経験	あり	58	38.2	115	70.6	166	70.6	339	61.6	0.000
	なし	72	47.4	35	21.5	60	25.5	167	30.4	
	わからない	20	13.2	10	6.1	7	3.0	37	6.7	
	無回答・不明	2	1.3	3	1.8	2	0.9	7	1.3	
	合計	152	100.1	163	100.0	235	100.0	550	100.0	
本日のHIV検査予定	はい	37	24.3	79	48.5	142	60.4	258	46.9	0.000
	いいえ	115	75.7	84	51.5	92	39.1	291	52.9	
	無回答・不明	0	0.0	0	0.0	1	0.4	1	0.2	
	合計	152	100.0	163	100.0	235	99.9	550	100.0	
本日の無料検査受検希望	はい	119	78.3	157	96.3	230	97.9	506	92.0	0.000
	いいえ	32	21.1	5	3.1	4	1.7	41	7.5	
	無回答・不明	1	0.7	1	0.6	1	0.4	3	0.5	
	合計	152	100.1	163	100.0	235	100.0	550	100.0	
これまでのHIV検査経験	あり	18	11.8	94	57.7	105	44.7	217	39.5	0.000
	なし	134	88.2	69	42.3	128	54.5	331	60.2	
	無回答・不明	0	0.0	0	0.0	2	0.9	2	0.4	
	合計	152	100.0	163	100.0	235	100.1	550	100.1	
過去のHIV検査受検回数 (対象: 検査経験者のみ n=217)	1回	13	72.2	12	12.8	36	34.3	61	28.1	0.000
	2回	2	11.1	3	3.2	10	9.5	15	6.9	
	3回以上	2	11.1	76	80.9	55	52.4	133	61.3	
	無回答・不明	1	5.6	3	3.2	4	3.8	8	3.7	
	合計	18	100.0	94	100.1	105	100.0	217	100.0	
直近の性行為でのコンドーム使用	はい	52	34.2	83	50.9	122	51.9	257	46.7	0.013
	いいえ	96	63.2	73	44.8	103	43.8	272	49.5	
	おぼえていない	3	2.0	5	3.1	8	3.4	16	2.9	
	無回答・不明	1	0.7	2	1.2	2	0.9	5	0.9	
	合計	152	100.1	163	100.0	235	100.0	550	100.0	
リスク認知	まったくない	12	7.9	17	10.4	16	6.8	45	8.2	0.007
	低いと思う	93	61.2	73	44.8	103	43.8	269	48.9	
	中くらいと思う	35	23.0	50	30.7	88	37.4	173	31.5	
	高いと思う	7	4.6	20	12.3	24	10.2	51	9.3	
	無回答・不明	5	3.3	3	1.8	4	1.7	12	2.2	
	合計	152	100.0	163	100.0	235	99.9	550	100.1	

表 2. 性感染症罹病経験の年齢分布

年齢区分	男性外来患者(n=152)								合計	P値	女性外来患者(n=163)								合計	P値	セックスワーカー(n=235)								合計	P値
	あり		なし		わからない		無回答				あり		なし		わからない		無回答				あり		なし		わからない		無回答			
	n	%	n	%	n	%	n	%			n	%	n	%	n	%	n	%			n	%	n	%	n	%	n	%		
<30歳	11	19.0	20	27.8	3	15.0	2	100.0	36	0.098	50	43.5	19	54.3	7	70.0	2	66.7	78	0.313	94	56.6	28	46.7	4	57.1	1	50.0	127	0.033
30-39歳	18	31.0	21	29.2	10	50.0	0	0.0	49		23	20.0	10	28.6	2	20.0	1	33.3	36		45	27.1	22	36.7	0	0.0	0	0.0	67	
40-49歳	19	32.8	14	19.4	5	25.0	0	0.0	38		31	27.0	6	17.1	1	10.0	0	0.0	38		21	12.7	9	15.0	2	28.6	0	0.0	32	
50歳以上	10	17.2	17	23.6	2	10.0	0	0.0	29		11	9.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	11		6	3.6	1	1.7	1	14.3	1	50.0	9	

表 3. これまでに罹患した性感染症（罹病経験有りのみ n=339・複数解答）

性感染症罹病経験	男性外来患者 (n=58)		女性外来患者 (n=115)		セックスワーカー (n=166)		P値
	n	%	n	%	n	%	
コンジローマ	7	12.1	20	17.4	27	16.3	0.642
性器クラミジア	29	50.0	86	74.8	116	69.9	0.002
性器ヘルペス	6	10.3	32	27.8	44	26.5	0.024
梅毒	2	3.4	9	7.8	8	4.8	0.407
淋病	17	29.3	29	25.2	46	27.7	0.818
その他	1	1.7	10	8.7	15	9.0	0.198
病名不明	3	5.2	0	0.0	0	0.0	0.009
合計							

表 4. 来院日における HIV 検査予定の有無の年齢分布

年齢区分	男性外来患者(n=152)						合計	P値	女性外来患者(n=163)						合計	P値	セックスワーカー(n=235)						合計	P値
	はい		いいえ		無回答				はい		いいえ		無回答				はい		いいえ		無回答			
	n	%	n	%	n	%			n	%	n	%	n	%			n	%	n	%	n	%		
<30歳	7	18.9	29	25.2	0	0.0	36	0.382	22	27.8	56	66.7	0	0.0	78	0.000	76	53.5	51	55.4	0	0.0	127	0.120
30-39歳	16	43.2	33	28.7	0	0.0	49		18	22.8	18	21.4	0	0.0	36		37	26.1	30	32.6	0	0.0	67	
40-49歳	7	18.9	31	27.0	0	0.0	38		29	36.7	9	10.7	0	0.0	38		22	15.5	9	9.8	1	100.0	32	
50歳以上	7	18.9	22	19.1	0	0.0	29		10	12.7	1	1.2	0	0.0	11		7	4.9	2	2.2	0	0.0	9	

表5. 来院目的がHIV検査でなかった受診者 (n=291) における無料検査希望者の割合

本日の無料検査希望	男性外来患者 (n=115)		女性外来患者 (n=84)		セックスワーカー (n=92)		合計 (n=291)		P値
	n	%	n	%	n	%	n	%	
はい	83	72.2	80	95.2	88	95.7	251	86.3	0.000
いいえ	32	27.8	4	4.8	4	4.3	40	13.7	
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
合計	115	100.0	84	100.0	92	100.0	291	100.0	

表6. 直近の性行為におけるコンドーム使用状況の年齢分布

年齢区分	男性外来患者(n=152)									P値	女性外来患者(n=163)									P値	セックスワーカー(n=235)									P値
	はい		いいえ		忘れた		無回答		合計		はい		いいえ		忘れた		無回答		合計		はい		いいえ		忘れた		無回答		合計	
	n	%	n	%	n	%	n	%			n	%	n	%	n	%	n	%			n	%	n	%	n	%	n	%		
<30歳	13	25.0	21	21.9	1	33.3	1	100.0	36	0.925	42	50.6	30	41.1	5	100.0	1	50.0	78	0.080	65	53.3	60	58.3	2	25.0	0	0.0	127	0.011
30-39歳	14	26.9	34	35.4	1	33.3	0	0.0	49		15	18.1	21	28.8	0	0.0	0	0.0	36		39	32.0	25	24.3	3	37.5	0	0.0	67	
40-49歳	14	26.9	23	24.0	1	33.3	0	0.0	38		21	25.3	17	23.3	0	0.0	0	0.0	38		12	9.8	17	16.5	2	25.0	1	50.0	32	
50歳以上	11	21.2	18	18.8	0	0.0	0	0.0	29		5	6.0	5	6.8	0	0.0	1	50.0	11		6	4.9	1	1.0	1	12.5	1	50.0	9	

表7. HIV関連知識質問に対する回答結果

	男性外来患者(n=152)								女性外来患者(n=163)								セックスワーカー(n=235)								P値
	正しい		正しくない		わからない		無回答		正しい		正しくない		わからない		無回答		正しい		正しくない		わからない		無回答		
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
1.最近、わが国のHIV感染経路は性行為によるものが最も多い(O)	124	81.6	8	5.3	19	12.5	1	0.7	121	74.2	7	4.3	35	21.5	0	0.0	189	80.4	9	3.8	37	15.7	0	0.0	0.235
2.治療薬の進歩で、HIVに感染してから発症するまでの期間を遅らせることができるようになった(O)	108	71.1	7	4.6	36	23.7	1	0.7	99	60.7	7	4.3	57	35.0	0	0.0	154	65.5	16	6.8	64	27.2	1	0.4	0.273
3.HIVに感染している妊婦から赤ちゃんにHIVが感染する危険性がある(O)	120	78.9	7	4.6	24	15.8	1	0.7	131	80.4	5	3.1	27	16.6	0	0.0	191	81.3	6	2.6	38	16.2	0	0.0	0.755
4.性感染症に罹っていると、HIVに感染しやすい(O)	90	59.2	23	15.1	38	25.0	1	0.7	81	49.7	15	9.2	67	41.1	0	0.0	144	61.3	22	9.4	68	28.9	1	0.4	0.029
5.性感染症はオーラルセックスで感染することがある(O)	126	82.9	3	2.0	21	13.8	2	1.3	126	77.3	5	3.1	32	19.6	0	0.0	195	83.0	6	2.6	33	14.0	1	0.4	0.465
6.保健所では名前を言わずに無料でエイズ検査ができる(O)	98	64.5	10	6.6	43	28.3	1	0.7	89	54.6	8	4.9	66	40.5	0	0.0	152	64.7	17	7.2	66	28.1	0	0.0	0.056
7.HIV検査で感染がわかった場合、名前や住所が国に報告される(X)	19	12.5	56	36.8	76	50.0	1	0.7	22	13.5	34	20.9	107	65.6	0	0.0	23	9.8	76	32.3	136	57.9	0	0.0	0.007

患者さんへのアンケート 登録番号 _____

このアンケートは、HIV 検査と HIV 関連知識の普及を目的として行っているものです(注：HIV とはエイズの原因となるウイルスです)。参加は任意で、答えたくない質問にはお答えにならなくても結構です。問9については、アンケートご回答後に、正解をお渡しします。

問1. あなたの性別をお答えください (○は1つだけ)。

1. 男性 2. 女性

問2. あなたの年齢は (数値をご記入ください) _____ 歳

問3. これまで、性感染症 (性器クラミジア、淋病、梅毒、性器ヘルペス、尖圭コンジローマなど) にかかったことがありますか？

(○は1つだけ)

1. いいえ
 2. はい ⇒ 病名は何でしたか？ _____
 3. わからない

問4. 過去1年間に HIV 検査を受けたことがありますか？

1. いいえ
 2. はい → 受けた回数は何回ですか？ (○は1つだけ)
 a. 1回
 b. 2回
 c. 3回以上

問5. 本日は、HIV 検査を受ける予定でこられましたか？

1. いいえ 2. はい

問6. 本日は、無料で HIV 検査を受けられますが、受けますか？

1. いいえ 2. はい

問7. 一番最近の性行為 (オーラル・セックスを含む) でコンドームを使用しましたか？

1. いいえ 2. はい 3. おぼえていない

問8. 現在、あなた自身が性行為によって HIV に感染する可能性はどのくらいあると思いますか？

1. まったくないと思う。
 2. 低いと思う。
 3. 中くらいと思う。
 4. 高いと思う。

問9. 次の情報は正しいと思いますか、正しくないと思いますか？

それぞれについて当てはまると思うところに○をつけてください。

	正しい	正しくない	わからない
1. わが国の HIV の感染経路は性行為によるものがもっとも多い。 →			
2. 治療薬の進歩で、HIV に感染してから発病するまでの期間を遅らせることができるようになった。 →			
3. HIV に感染している妊婦から赤ちゃんに HIV が感染する危険性がある。 →			
4. 性感染症 (性病) にかかっていると、HIV に感染しやすい。 →			
5. 性感染症 (性病) は、オーラルセックスで感染することがある。 →			
6. 保健所では名前を言わずに無料で HIV 検査ができる。 →			
7. HIV 検査で感染がわかった場合、名前や住所が国に報告される。 →			

以上です。ご協力ありがとうございました。

平成27年度厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策政策研究事業)
薬物乱用・依存者、性感染症患者のHIV感染状況及び内外のHIV流行等の動向に関する研究
分担研究報告書

薬物乱用・依存者におけるHIV感染と行動のモニタリングに関する研究(2015年)

研究分担者：和田 清(埼玉県立精神医療センター依存症治療研究部)

班 員：嶋根卓也(国立精神・神経医療研究センター)、森田展彰(筑波大学)、

合川勇三(埼玉県立精神医療センター)、

研究協力者：栃木ダルク、茨城ダルク、千葉ダルク、東京ダルク、横浜ダルク、

研究要旨 ① 薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。② 対象は薬物依存症回復支援施設(5カ所)に入所・通所している薬物乱用・依存者である。本人の同意の下で、個人面接聞き取り調査・採血調査を実施した。調査期間は2015年1月1日～2015年12月31日である。③ 初回検査者は79人(本調査経験者を含めると延べ158人)であった。この初回検査者を研究対象とした。④ 対象者をICD-10分類に従って分類すると、「覚せい剤」群が55.7%と最も多く、次いで「他剤・多剤」群の17.7%であった。この数年、「脱法ドラッグ」の一形態である「脱法ハーブ」乱用問題が一大社会問題化し、ICD-10分類上「脱法ドラッグ」がカテゴライズされるF19(多剤・他剤群)の割合は、2014年調査では32.9%にまで上昇したが、今回は激減していた。その原因は、旧薬事法の改正や取り締まり・流通規制強化により、「脱法ドラッグ」乱用は、2014年秋から事実上、急速に終息したためと考えられる。⑤ HIV抗体陽性者は認められなかった。⑥ 「覚せい剤」群でのHCV抗体陽性率は48.8%(2014年では40.0%)と高く、2005年以降、増加傾向にある。しかし、この間の注射行動、入れ墨、風俗での性行為に関するデータ上は変化がなく、最大に理由は対象の高齢化にあることが示唆された。⑦ わが国では、依存性薬物の静脈注射とは、覚せい剤の静脈注射を意味している。「覚せい剤」群での生涯注射経験率は88.4%(2014年で95.1%)と高く、「覚せい剤」群での「シリンジ共有経験」率は73.8%(2014年で75.6%)、「針の共用経験」率は69.0%(2014年で65.9%)と高かった。最近1年間に限れば、注射経験率は下がるが、それでも「覚せい剤」群の22.7%(2014年で39.0%)に最近1年間での注射既往があり、15.9%(2014年で12.2%)には「シリンジ共有経験」があり、13.6%(2014年で9.8%)には「針の共用経験」があった。ただし、最近1年間での注射経験率の相対的低さは、対象者たちが回復支援施設に入所・通所しながら、薬物を使わない生活を送っている一端であることを理解する必要がある。⑧ 性病の既往では、「毛ジラミ」「淋病」「クラミジア」既往の割合が高く、特に「覚せい剤」群では「淋病」の既往率が高く、「他剤・多剤」群では「クラミジア」の既往率が高かった。⑨ 最近1年間での「風俗」での性交渉と「風俗」以外での不特定多数との性交渉に関しては、コンドーム使用の徹底の必要性が示唆された。最近1年間での海外渡航者は、数の上では多くはないが、渡航した者の渡航先での薬物使用率、性接触率は高く、注意を要する結果であった。⑩ 注射による薬物の使用がHIV感染・C型肝炎の主な感染経路になっていることを知っている者の率は、HIV感染では有意差はなかったものの、C型肝炎感染ではIDU経験者の方で知っている者の割合が有意に高かった。「知識があれば、危険行動はとらない」と考えがちであるが、「逸脱の世界」では、往々にして、経験者群の方が知識を持っているということもあり得る世界である。⑪ HCV抗体の陽性・陰性について、年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無、風俗での性接触を独立変数として、判別分析を行った。その結果、固有値が0.549、Wilksのラムダが0.646($p < 0.000$)であり、モデルとしては良好とはいえないが、正答率は75.5～84.2%で、構造行列の相関係数は、注射の回数：0.785、入れ墨：0.288、年齢：0.026、風俗での性接触：-0.110であり、この順に判別に寄与する程度が大きいことが判明した。⑫ 薬物乱用・依存者のHIV感染・HCV感染は、注射行為のみならず、性行為による感染の可能性と重複している可能性が高いことが示唆された。今後も、この両面からHIV感染・HCV感染の実態把握と予防に努めていく必要がある。

A. 目的

薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器、注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。

B. 研究対象と研究方法

研究対象は、下記の通りである。

- ・下記の薬物依存症回復支援施設への通所・入所者

- ④ダルク ⑩ダルク
- ⑭ダルク ⑰ダルク
- ⑱ダルク

わが国では、薬物乱用・依存者の多くが医療施設を受診するわけではない。平成21年6月30日現在で全国の精神科病院に入院していた精神障害者は310,738人であるが、アルコールを除く薬物関連精神障害で入院していた患者は1,345人(全体の0.4%)であり、覚せい剤関連精神障害で入院していた患者はそのうちの671人(全体の0.2%)に過ぎない。一方、同年に新たに刑務所に入所した入所受刑者は24,780人であるが、そのうちの26.0%は覚せい剤事犯者であった。覚せい剤事犯者は初犯では原則執行猶予であり、入所受刑者になるということは、覚せい剤の使用を止められずに、再使用により再犯者となった「覚せい剤依存症」と考えられる。したがって、わが国では、最も多くの覚せい剤依存者を収容しているところは刑務所であるということになる。

そこで、本調査では、医療機関、刑務所以外で、薬物乱用・依存者が通所・入所している薬物依存症回復支援施設(図1○)の協力を得て、そこへの通所・入所者に対する個人面接聞き取り調査・採血調査を本人の同意の下で実施した。

調査期間は2015年1月1日～2015年12月31日である。

なお、本調査研究については国立精神・神経医療研究センターの倫理委員会の承認(承認番号A2014-147)を得た上で実施した。

覚せい剤等の使用は、わが国では、それ自体

が犯罪行為であり、本調査は違法行為の掘り起こしの側面を持っており、調査への同意を得ることが困難な調査である。しかも、ハイリスク行動に関する聞き取り調査には、調査者側の訓練・経験が必要であり、調査実施の困難性はなおさらである。

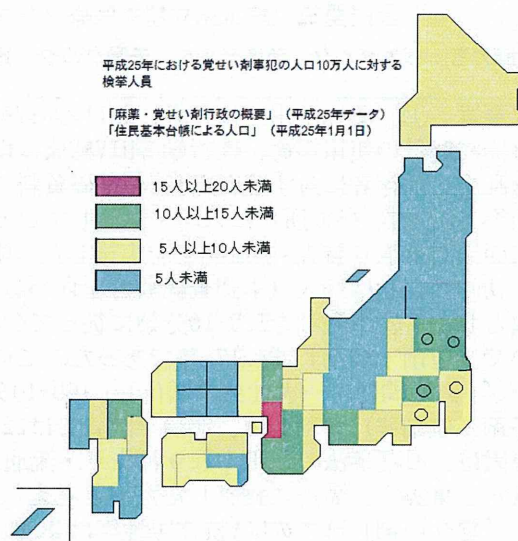


図1 平成25年度における覚せい剤事犯の人口10万人に対する検挙人員と調査定点

C. 研究結果

初回検査者は79人(本調査経験者を含めると延べ158人)であった。なお、昨年度までは本研究からは、精神科病院における同様の調査も実施していたため、本調査との比較の意味で、以下の図では、昨年までの精神科病院調査の結果も示した。

1. 全体傾向としての結果

対象患者をICD-10分類に従って分類し、各カテゴリー毎に人口統計学的属性・血清検査結果、身体所見を示したものが表1である。2011年頃から、「脱法ドラッグ」の一形態である「脱法ハーブ」乱用問題が一大社会問題化し、ICD-10分類上「脱法ドラッグ」がカテゴライズされるF19(多剤・他剤群)の割合は、2012年の本調査では19.6%となり、2013年には26.1%、2014年には32.9%にまで上昇したが、今回の2015年

調査では17.7%と減少していた。「脱法ドラッグ」問題は、旧薬事法の改正や取り締まり・流通規制強化により、2014年秋から事実上、「パッタリ」と終息したため、その影響が今回の17.7%という数字に反映されていると考えられる。

性別では、調査施設のほとんどが男性専用施設のため、男：女は約9：1であった。

年齢はICD-10分類に関わらず、30～40歳代が多い結果であった。ただし、平均年齢では「覚せい剤」群が41.3歳であるのに対して、「他剤・他剤」群では35.3歳と若かった。

未婚者が多いと同時に離婚経験者も多かった。

一連の本回復支援施設群調査で初めてHIV抗体陽性者が認められたのは2013年調査であるが、2014年調査でも1名のHIV感染陽性者を認めた。しかし、今回の2015年調査ではHIV抗体陽性者は認められなかった。

これまでの陽性者計3名は表の通りであり、3名ともMSMであるが、乱用薬物は覚せい剤に限らず、「脱法ドラッグ」優位であることに注目する必要がある。

これまでの日本人HIV陽性ケース（日本人）

No.	年	年齢	性別	診断	感染経路
1	2013	24	男	「脱法ドラッグ」依存症	MSM間での性行為
2	2013	44	男	覚せい剤依存症	MSM間での性行為
3	2014	39	男	「脱法ドラッグ」依存症	MSM間での性行為

また、「覚せい剤」群でのHCV抗体陽性率は48.8%（2014年では40.0%）と高かった。2005年以降、傾向としては上昇にある（図2）。その原因については後述したい。

性病の既往では、「毛ジラミ」「淋病」「クラミジア」既往の割合が高かった。その中でも、「覚せい剤」群では「淋病」の既往率が高く、「他剤・多剤」群では「クラミジア」の既往率が高かった。

身体所見では、ICD-10分類に関わりなく、「歯の著明あり」の割合が高く、「注射痕あり」「入れ墨あり」「根性焼きあり」（「根性焼き」とは、有機溶剤乱用時（ICD-10ではF18：揮発性溶剤）に、タバコの火を自らの手の甲に押しつけることによって出来る火傷痕であるが、その存在は有機溶剤乱用の既往を推測させるもの

である。これは「揮発性溶剤」患者のみならず、覚せい剤関連患者にも高率に認められ、「有機溶剤乱用→覚せい剤乱用」という、わが国独自の乱用薬物の流れを示唆するものであったが、有機溶剤乱用の激減により、以前ほどの意味はなさなくなった感がある。）の割合は「覚せい剤」群で高かった。この「注射痕あり」「入れ墨あり」「根性焼きあり」の率の高さは、「覚せい剤」群での注射による薬物乱用の頻度の高さと同時に、社会的偏りをも示唆している。

表2は、注射行動・性行動等のHIV感染に関する危険行動調査の結果である。

わが国では、依存性薬物の静脈注射とは、事実上、覚せい剤の静脈注射を意味している。表2に示すように、「覚せい剤」群での生涯注射経験率は88.4%（2014年で95.1%）と高く、「覚せい剤」群での「シリンジ共有経験」率は73.8%（2014年で75.6%）、「針の共用経験」率は69.0%（2014年で65.9%）と高かった。

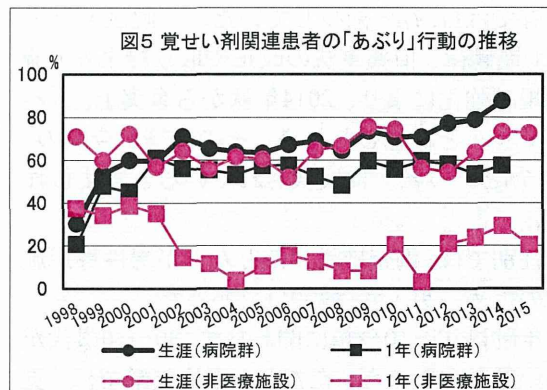
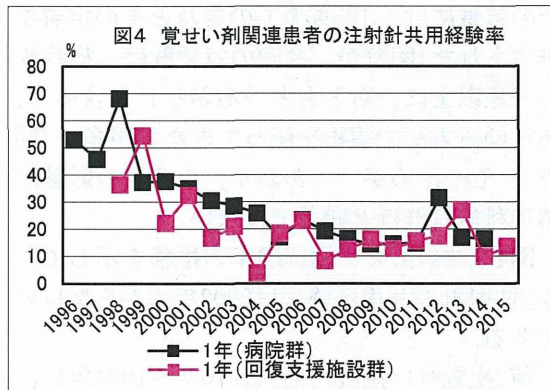
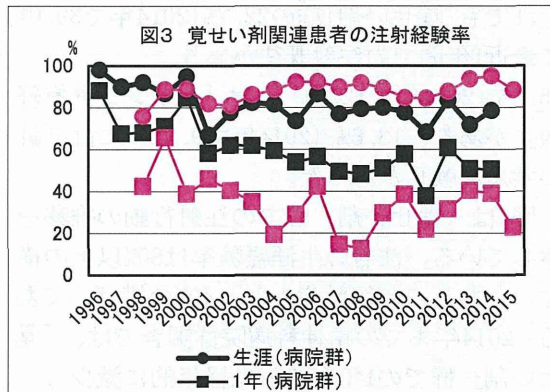
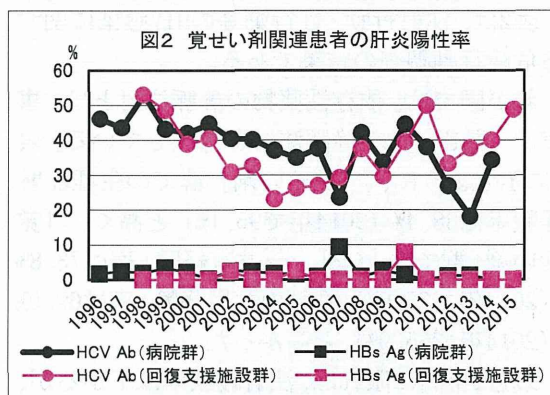
最近1年間に限れば、注射経験率は下がるが、それでも「覚せい剤」群の22.7%（2014年で39.0%）に最近1年間での注射既往があり、15.9%（2014年で12.2%）には「シリンジ共有経験」があり、13.6%（2014年で9.8%）には「針の共用経験」があった。

図3は「覚せい剤」群での注射行動の推移を示している。注射の生涯経験率は80%以上の横ばいであり、1年経験率も20～40%の横ばいである。2014年までの精神科病院群調査では、「覚せい剤」群での1年経験率は経年的に減少し、その背景には、「あぶり」の普及とその定着が推定された（図5）が、今回の対象群は、病院群の対象以上に、もともと「あぶり」を含めて、あらゆる方法で薬物を使ってきた者が多く（図5）、そのためか、「あぶり」の普及の影響は精神科病院群ほど顕著ではない。

図4は注射針の共用経験率の推移を示している。注射針の共用経験率は2002年頃から横ばいである。

第2次覚せい剤乱用期（1970年～1994年）には、覚せい剤の乱用と言えば、静脈注射一辺倒であったが、その後の第3次乱用期（1995年～現在）では、覚せい剤を火であぶって吸う「あぶり」が若い年代の覚せい剤乱用者間で広がっ

た。図5は「覚せい剤」群での「あぶり」の経験率を示している。「あぶり」はHIV感染とは直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションナブルな感覚から、覚せい剤の乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の視点からは決して歓迎される形態とは言えない。しかも、その気軽さ、ファッションナブルさから、性行動との結びつきの促進が憂慮される問題である。最近1年間での「風俗」での性交渉経験率は、対象データがないため、高い低いを言え



ないが (表2)、利用の際のコンドームの使用徹底は啓発してゆく必要がある。

「風俗」以外での不特定多数との性交渉(「行きずり」の性交渉)も、最近1年間での「風俗」での性交渉と同じように論ずることができる。

また、国内での外国人との性接触は「風俗」で多く、これもHIV感染の危険因子と考えられる。

最近1年間での海外渡航者(表2)は、数の上では多くはないが、渡航した者の渡航先での薬物使用率、性接触率は高く、注意を要する。

表3は、ICD-10分類にかかわらず、注射の既往、入れ墨の有無による人口統計学的属性、血清検査結果、身体所見を示したものである。

最近1年間で注射既往のある者の平均年齢は42.6歳(2014年は39.7歳)であり、これまでに注射既往のない者のそれは41.0歳(2014年では32.5歳)で、以前には注射既往があるが、この1年間ではない者のそれは41.6歳(2014年では42.1歳)であった。平均年齢では最近1年間で注射既往のある者の平均年齢が最も高いことは、覚せい剤の依存性の強さと同時に、薬物乱用者自体の高齢化が進行していることを示唆している。

また、HCV抗体陽性率は、注射による乱用経験のある二つの群で明らかに高く、HCV感染が注射針の共用に起因することを強く示唆している。

また、注射経験者では「入れ墨」保有率が高く、「根性焼きあり」「指つめあり」の率も高く、注射経験者には社会的属性の偏りのある者がそれなりにいることを示唆している。

また、「入れ墨」は、皮膚を彫る際の針によってHCV、HIV感染等の感染危険行動になり得る。

表3に示したように、「入れ墨」保有者でのHCV抗体陽性率は45.0% (2014年では41.4%) と高かった。

表4は、ICD-10分類に関わらず、調査対象を注射既往、入れ墨の有無から、注射行動、性行動についてみたものである。

「「風俗」での性接触あり」「「風俗」以外での不特定多数との性接触あり」「国内で外国人との性接触あり」率のいずれもが、注射経験が「1年間にもあり」群で高かった。要するに、この群での性行動上の危険性の高さを示唆している。

以上より、「覚せい剤」群は注射行動という危険行動に加えて、入れ墨保有率も高く、性的危険行動も高く、複合的にHCV感染の危険性が増していると推定できる。

2. HCV感染に関するハイリスク因子について

本調査研究では、調査の度にHCV感染率が高率である。そこで、「覚せい剤」群に限定せず、初回検査者の全データを用いて、HCV感染に関するハイリスク因子について検討した。

表9は、今回の検査を受ける際に、注射による薬物の使用はHIV感染・C型肝炎の主な感染経路になっていることを知っていたかどうかに関する初回検査者の結果である。注射によるHIV感染の危険を知らなかった者の割合は両群で違いはなかった。しかし、C型肝炎については、IDU経験者の方が知っていた者の割合が有意に多いという結果であった。知識があれ

	HIVについて知らなかった者	C型肝炎について知らなかった者 *:p<0.05
IDU非経験者	23.1% (9/39)	23.1% (9/39)
IDU経験者	23.7% (9/38)	5.6% (2/36)*

ば、危険行動はとらないと考えがちであるが、「逸脱の世界」では、往々にして、経験者の方が知識を持っているということもあり得る世界である。

また、表10は「あぶり」を行った理由につい

ての回答である。IDU非経験者群とIDU経験者群とでは、「針が手に入らなかったから」という以外、有意差は認められなかった。むしろ、HIV感染、C型肝炎感染が気になって「あぶり」を行ったという者が少ないことに留意する必要がある。

図6は、注射による薬物使用の経験の有無とHCV抗体陽性率との関係を示している。注射による薬物使用の経験がある者でのHCV抗体陽性率が明らかに高かった。

図7は、入れ墨の有無とHCV抗体陽性率との関係を示している。入れ墨のある者でのHCV抗

	IDU非経験者	IDU経験者
好奇心	61.5% (8/13)	54.2% (13/24)
注射は怖いから	38.5% (5/13)	20.8% (5/24)
気軽にできるから	46.2% (6/13)	25.0% (6/24)
回数を多くできるから	15.4% (2/13)	4.2% (1/24)
依存になりにくいと思ったから	30.8% (4/13)	8.3% (2/24)
針が手に入らなかったから*	0% (0/13)	41.7% (10/24)
HIV感染が気になったから	7.7% (1/13)	0% (0/24)
C型肝炎感染が気になったから	7.7% (1/13)	8.3% (2/24)
その他	0% (0/13)	8.3% (2/24)
		*: p<0.05

体陽性率は明らかに高かった。

図8は、この1年間での風俗経験とHCV抗体陽性率との関係を示している。風俗経験の有無とHCV抗体陽性との間には、統計学的有意差が認められなかった。ただし、今回の対象者たちは、回復支援施設に入所中の者がほとんどであり、そもそも、この1年間での風俗経験のない者が多いことにも留意しておく必要がある。

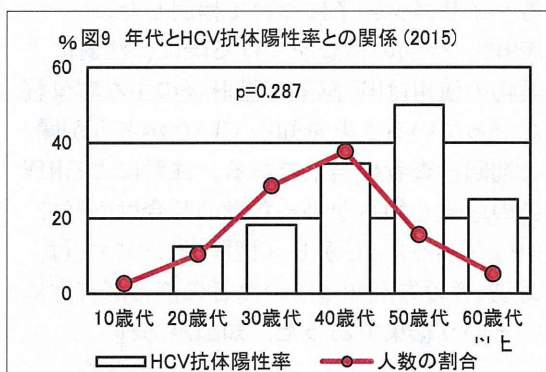
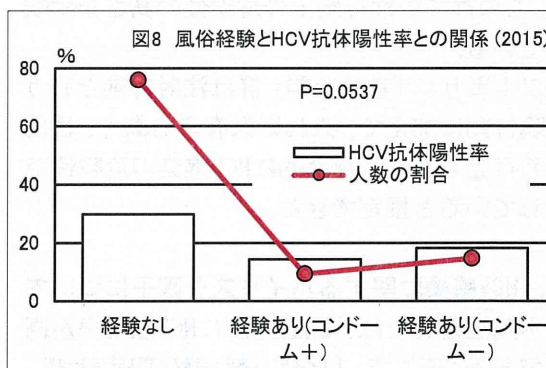
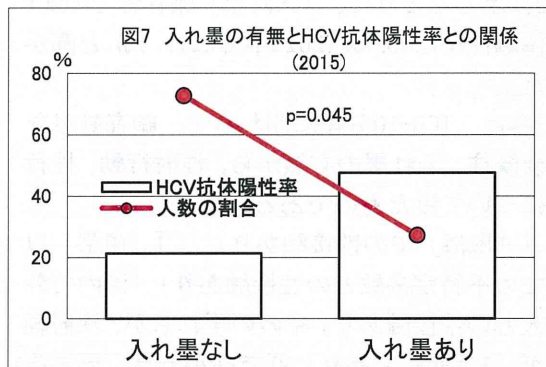
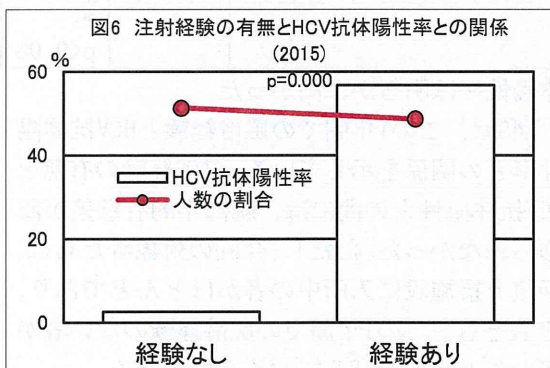
図9は、年代とHCV抗体陽性率との関係を示している。50歳代までは、年代が上がるほどHCV

抗体陽性率が高くなることが明らかである。ただし、60歳代でのHCV抗体陽性率は40歳代、50歳代より低く、その対象人数も少ないため、対象者全体としては年代とHCV抗体陽性率との間には有意差は認められなかった。しかし、60歳代の対象者は4人中3人が「アルコール」患者であり、他の薬物患者とは質が違うことにも留意しておく必要がある。

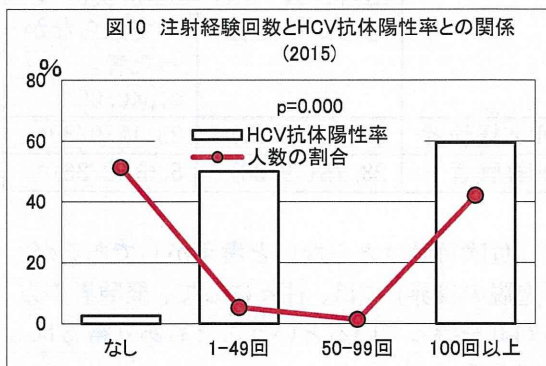
図10は、これまでの注射による薬物使用回数とHCV抗体陽性率との関係を示している。これまでの注射回数というものは信頼性に欠ける面があるが、確かなことは、これまでに注射による薬物乱用の経験が無いという場合と、100回以上と言って良いほど多数回の注射経験があるという2点であろうと推定できる。従って、図10の意味するところは、注射回数が増えれば増えるほど、HCV抗体陽性率は高まると解釈して問題はないであろう。

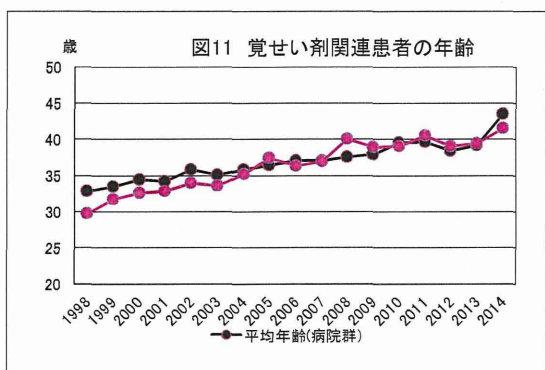
そこで、HCV抗体の陽性・陰性について、年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無、風俗での性接触を独立変数として、判別分析を行ってみた。その結果、固有値が0.549、Wilksのラムダが0.646 ($p < 0.000$) であり、モデルとしては良好とはいえないが、正答率は75.5~84.2%で、構造行列の相関係数は、注射の回数：0.785、入れ墨：0.288、年齢：0.026、風俗での性接触：-0.110であり、この順に判別に寄与する程度が大きいことが判明した。

一般人口における年齢とHCV抗体陽性率の間には、高齢になるほどHCV抗体陽性率が高まるという年齢による累積効果とでも言うべき現象が存在するようであるが、図9に見る本調査



の対象群における年代とHIV抗体陽性率との関係は、その現象の範囲を超える上昇ぶりである。





これは、注射針の共有が同世代の薬物乱用・依存者間で繰り返されてきた結果ではないかと考えられる。

■2005年ないしは2008年からのHCV抗体陽性率上昇の原因は何か？

前述したように、回復支援施設群では2005年から、また、病院群では2008年から、HCV抗体陽性率が上昇してきている。しかし、HCV感染に最も関係していると考えられる注射行動は、変動してはならず(図3、図4)、注射行動との関係は否定できそうである。また、入れ墨保有者や風俗経験者が年々増加しているということもない。

どうやら、答えは図11にありそうである。図11は一連の本調査での覚せい剤関連患者の平均年齢の推移を見たものである。1998年調査では、覚せい剤関連患者の平均年齢は病院群で32.9歳であったのが、2014年には43.5歳であり、回復支援施設群では、同じく29.7歳から41.5歳まで上昇しているのである。

覚せい剤乱用者の年齢が、高齢化してきており、その結果がHCV抗体陽性率の上昇として現れていると考えるのが自然のようである。この覚せい剤乱用者の高齢化の背景には、今日の日本では、若者による薬物乱用は減少しており、同時に、違法薬物から「脱法ドラッグ」へのシフト、すなわち「捕まる行為から捕まらない行為」への流れ¹⁾があることは確かである。

E. 結論

① 薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器

注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。

② 対象は薬物依存症回復支援施設(5カ所)に入所・通所している薬物乱用・依存者である。本人の同意の下で、個人面接聞き取り調査・採血調査を実施した。

調査期間は2015年1月1日～2015年12月31日である。

③ 初回検査者は79人(本調査経験者を含めると延べ158人)であった。この初回検査者を研究対象とした。

④ 対象者をICD-10分類に従って分類すると、「覚せい剤」群が55.7%と最も多く、次いで「他剤・多剤」群の17.7%であった。2011年頃から、「脱法ドラッグ」の一形態である「脱法ハーブ」乱用問題が一大社会問題化し、ICD-10分類上「脱法ドラッグ」がカテゴライズされるF19(多剤・他剤群)の割合は、2014年調査では32.9%にまで上昇したが、今回は激減していた。その原因は、旧薬事法の改正や取り締まり・流通規制強化により、「脱法ドラッグ」乱用は、2014年秋から事実上、終息したためと考えられる。

⑤ HIV抗体陽性者は認められなかった。

⑥ 「覚せい剤」群でのHCV抗体陽性率は48.8%(2014年では40.0%)と高く、2005年以降、増加傾向にある。

⑦ 性病の既往では、「毛ジラミ」「淋病」「クラミジア」既往の割合が高く、特に「覚せい剤」群では「淋病」の既往率が高く、「他剤・多剤」群では「クラミジア」の既往率が高かった。

⑧ 身体所見では、ICD-10分類に関わりなく、「歯の著明あり」の割合が高く、「注射痕あり」「入れ墨あり」「根性焼きあり」の割合は「覚せい剤」群で高かった。この「注射痕あり」「入れ墨あり」「根性焼きあり」の率の高さは、「覚せい剤」群での注射による薬物乱用の頻度の高さと同時に、社会的偏りをも示唆している。

⑨ わが国では、依存性薬物の静脈注射とは、事実上、覚せい剤の静脈注射を意味している。「覚せい剤」群での生涯注射経験率は88.4%(2014年で95.1%)と高く、「覚せい剤」群での「シリンジ共有経験」率は73.8%(2014年で

75.6%)、「針の共用経験」率は69.0% (2014年で65.9%)と高かった。

最近1年間に限れば、注射経験率は下がるが、それでも「覚せい剤」群の22.7% (2014年で39.0%)に最近1年間での注射既往があり、

15.9% (2014年で12.2%)には「シリンジ共有経験」があり、13.6% (2014年で9.8%)には「針の共用経験」があった。

⑩ 「覚せい剤」群での注射の生涯経験率は経年的に80%以上の横ばいである。今回の対象群は、もともと「あぶり」を含めて、あらゆる方法で薬物を使ってきた者が多いため、「あぶり」の普及の影響を受けていないことが推定された。ただし、この1年間での注射の生涯経験率は経年的に20~40%の横ばいであり、対象者たちが回復支援施設に入所・通所しながら、薬物を使わない生活を送っている一端が伺われた。

⑪ 最近1年間での「風俗」での性交渉と「風俗」以外での不特定多数との性交渉（「行きずり」の性交渉）に関しては、コンドーム使用の徹底の必要性が示唆された。

最近1年間での海外渡航者は、数の上では多くはないが、渡航した者の渡航先での薬物使用率、性接触率は高く、注意を要する結果であった。

⑫ 最近1年間で注射既往のある者の平均年齢は42.6歳 (2014年は39.7歳)であり、これまでに注射既往のない者のそれは41.0歳 (2014年では32.5歳)で、以前には注射既往があるが、この1年間ではない者のそれは41.6歳 (2014年では42.1歳)であった。平均年齢で最近1年間で注射既往のある者の平均年齢が最も高いことは、覚せい剤の依存性の強さと同時に、薬物乱用者自体の高齢化が進行していることを示唆している。

⑬ 注射による薬物の使用はHIV感染・C型肝炎の主な感染経路になっていることを知っている者の率は、HIV感染では有意差はなかったものの、C型肝炎感染ではIDU経験者の方で知っていた者の割合が有意に高かった。「知識があれば、危険行動はとらない」と考えがちであるが、「逸脱の世界」では、往々にして、経験者群の

方が知識を持っているということもあり得る世界である。

⑭ HCV抗体の陽性・陰性について、年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無、風俗での性接触を独立変数として、判別分析を行った。その結果、固有値が0.549、Wilksのラムダが0.646 ($p < 0.000$)であり、モデルとしては良好とはいえないが、正答率は75.5~84.2%で、構造行列の相関係数は、注射の回数: 0.785、入れ墨: 0.288、年齢: 0.026、風俗での性接触: -0.110であり、この順に判別に寄与する程度が大きいことが判明した。

⑮ 前述したように、2005年から、HCV抗体陽性率が上昇してきている。しかし、HCV感染に最も関係していると考えられる注射行動は、変動してはおらず、注射行動との関係は否定できそうである。また、入れ墨保有者や風俗経験者が年々増加しているということもない。最大に理由は、対象の高齢化にあることが示唆された。

⑯ 薬物乱用・依存者のHIV感染・HCV感染は、注射行為のみならず、性行為による感染の可能性と重複していることが多いことが示唆された。今後も、この両面からHIV感染・HCV感染の実態把握と予防に努めていく必要がある。

【参考文献】

- 1) 和田 清、尾崎 茂、近藤あゆみ：薬物乱用・依存の今日的状況と政策的課題。日本アルコール・薬物医学会雑誌(43): 120-131, 2008.

F. 発表論文

なし

G. 学会発表

- 1) 和田 清、嶋根卓也：薬物乱用・依存とHIV/HCV感染-最近の特徴-。第50回日本アルコール・薬物医学会。神戸国際会議場。2015.10.13

H. 知的所有権の取得状況

なし

これまでの推移

薬物依存症回復支援施設入所者中の覚せい剤乱用・依存者（実数） 複数回人間は初回をカウント

	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
対象者数	4	9	11	33	35	18	37	42	43	26	38	26	48	24	37	39	32	57	47	41	44
年齢				29.7	31.8	32.6	32.9	34	33.6	35.2	37.5	36.3	37.0	40.1	38.9	39.1	40.5	39.1	39.5	41.5	41.3
HIV Ab +	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.3	0	0
																			1/44	0/40	0/43
HCV Ab +	25	44.4	9.1	53	48.6	38.8	40.5	31.0	32.6	23.1	26.3	26.9	29.2	37.5	29.7	39.5	50.0	33.3	37.8	40	48.8
	1/4	4/9	1/11	7/32	17/35	7/18	15/37	13/42	15/43	6/26	10/38	7/26				15/38	14/28	18/57	17/45	18/40	21/43
HBs Ag +	0	0	0	0	0	0	0	2.4	0	0	2.6	0	0	0	2.7	7.9	0	0	0	0	0
	0/4	0/6	0/11	0/33	0/35	0/18	0/37	1/41	0/43	0/26	1/38	0/26				3/38	0/28	0/57	0/42	0/40	0/43
HBs Ab +	0	10	12.1	11.4	5.6	12.5	10.3	15.4	18.8	14.7	11.5	10.4	12.5	8.1	7.9	3.7	7.1	7.3	7.7	7.1	7.1
	0/6	1/10	4/33	4/35	1/18	3/24	3/29	7/43	3/16	5/34	3/26				3/38	1/28	4/56	3/41	3/38	3/42	
HBc Ab +	10	12.5	14.3	11.1	12.5	17.2	23.1	6.3	11.8	11.5	16.7	16.7	16.2	18.4	11.1	3.6	4.9	7.7	4.7	4.7	4.7
	1/10	4/32	5/35	2/18	3/24	5/29	10/43	1/16	4/34	3/26				7/38	3/28	2/56	2/41	3/38	2/43		
% Needle Use (lifetime)	100	83.3	90.9	75.8	88.6	88.9	81.8	81	86	88.5	92.1	92.3	89.6	91.7	89.2	84.6	84.4	87.7	93.6	95.1	88.4
	4/4	5/6	10/11	25/33	31/35	16/18	30/37	34/42	37/43	23/26	35/38	24/26									
% Needle Use (past year)	75	50	72.7	42.4	65.7	38.9	45.9	40.5	34.9	19.2	28.9	42.3	14.6	12.5	29.7	38.5	21.9	31.6	40.4	39	22.7
	3/4	3/6	8/11	14/33	23/35	7/18	17/37	17/42	15/43	5/26	11/38	11/26									
% Needle Sharing (lifetime)	50	66.7	81.8	69.7	79.4	72.2	73	66.7	67.4	65.4	81.8	76	75	87.5	78.4	66.7	71.9	71.9	78.3	65.9	69
	2/4	4/6	8/11	23/33	27/34	13/18	27/37	28/42	29/43	17/26	30/37	18/25									
% Needle Sharing (past year)	25	33.3	54.5	36.4	54.4	22.2	32.4	16.7	20.9	3.8	18.4	23.1	8.3	12.5	16.2	12.8	15.6	17.5	27.1	8.8	13.6
	1/4	2/6	6/11	12/33	19/35	4/18	12/37	7/42	9/43	1/26	7/38	6/26									
「あぶり」の経験+ (lifetime)				71	60	72.2	56.8	64.3	55.8	61.5	60.5	52	64.6	66.7	75.7	74.4	56.3	54.4	63.8	73.2	72.7
				22/31	21/35	13/18	21/37	27/42	24/43	16/26	23/38	13/25									
「あぶり」の経験+ (past year)				37.5	34.3	38.9	35.1	14.6	11.6	3.8	10.5	15.4	12.5	8.3	8.3	20.5	3.1	21.1	23.9	29.3	20.5
				12/32	12/35	7/18	13/37	6/41	5/43	1/26	4/38	4/26			3/36						
注射か「あぶり」か (past year)																					
注射				34.4	57.1	22.2	43.2	41.5	34.9	19.2	28.9	34.6	18.8	8.3	30.6	35.9	21.9	26.3	34.8	29.3	20.5
「あぶり」				18.8	17.1	27.8	13.5	9.7	11.6	3.8	2.6	11.5	4.2	0	2.8	7.7	0	8.8	10.8	17.1	9.1
同程度				6.3	5.1	5.6	0	0	0	2.6	0	0	0	4.2	0	0	0	0	2.2	2.4	2.3
どちらもなし				40.6	20	33.3	43.2	48.8	53.5	76.9	65.8	53.8	77.1	87.5	66.7	56.4	78.1	64.9	52.2	51.2	68.2
n	32	35	18	37	41	43	26	38	26	48	24	36	39	32	57	46	41	44			
調査施設数	全国1	全国1	全国2	全国2	全国2	全国2	全国2	全国2	全国3	全国3	全国4	全国3	全国5	全国5	全国7	全国6	全国6	全国6	全国6	全国5	全国5

表1【薬物依存症回復支援施設入所者】の属性・血清検査・身体所見(%)

		主診断 (ICD-10)						
		F10	F12	F13	F15	F18	F19	全体
		アルコール	大麻	鎮静睡眠剤	覚せい剤等	揮発性溶剤	他剤・多剤	
		12[15.2]	5[6.3]	2[2.5]	44[55.7]	2[2.5]	14[17.7]	79 [100]
性別								
	男	10(83.3)	5(100)	2(100)	37(84.1)	2(100)	13(92.9)	69(87.3)
	女	2(16.7)			7(15.9)		1(7.1)	10(12.7)
年齢								
	10歳代				1(2.3)		1(7.1)	2(2.5)
	20歳代	1(8.3)	1(20.0)	1(50.0)	3(6.8)		3(21.4)	9(11.4)
	30歳代	1(8.3)			16(36.4)		5(35.7)	22(27.8)
	40歳代	5(41.7)	3(60.0)	1(50.0)	15(34.1)	1(50.0)	5(35.7)	30(38.0)
	50歳代	2(16.7)	1(20.0)		8(18.2)	1(50.0)		12(15.2)
	60歳代	3(25.0)			1(2.3)			4(5.1)
	平均年齢±SD	49.8 ±12.8	40.6 ±9.5	35.0 ±14.1	41.3 ±9.4	48.5 ±5.0	35.3 ±7.9	41.5 ±10.5
現在の配偶歴(%)								
	未婚	75.0	40.0	100	56.8	50.0	64.3	60.8
	既婚	0	0	0	2.3	50.0	14.3	5.1
	離婚	25.0	60.0	0	38.6	0	21.4	32.9
	死別	0	0	0	2.3	0	0	1.3
	離婚歴あり	33.3	60.0	0	45.5	0	28.6	39.2
血清検査(%)								
	HIV抗体陽性	0(0/11)	0	0	0(0/43)	0	0	0(0/77)
	HCV抗体陽性率	0(0/11)	0	0	48.8(21/43)	50.0	0	28.6(22/77)
	HBs抗原陽性率	0(0/11)	0	0	0(0/43)	0	0	0(0/77)
	HBs抗体陽性率	0(0/11)	0	0	7.1(3/42)	0	0	3.9(3/76)
	HBc抗体陽性率	0(0/11)	0	0	4.7(2/43)	0	0	2.6(2/77)
	TPHA陽性率	0(0/11)	0	0	0(0/43)	0	0	0(0/77)
性病既往(自己申告)(%)								
	毛ジラミ	0	20.0	0	15.9	50.0	15.4(2/13)	14.1(11/78)
	淋病	0	0.0	0	29.5	50.0	15.4(2/13)	20.5(16/78)
	クラミジア	0	0	0	9.1	0.0	30.8(4/13)	10.3(8/78)
	梅毒	0	0	0	0	0	0(0/13)	0(0/78)
身体所見(%)								
	輸血の既往あり	16.7	20.0	0.0	27.3(12/44)	0.0	0(0/13)	19.2(15/78)
	歯の著明不良あり	66.7	60.0	0	57.1(24/42)	50.0	64.3	58.4(45/77)
	注射痕あり	0.0	0.0	0.0	42.9(18/42)	50.0	0.0	24.7(19/77)
	入れ墨あり	0.0	20.0	0.0	40.5(17/42)	50.0	7.1	26.0(20/77)
	指つめあり	0.0	20.0	0.0	4.8(2/42)	0.0	0.0	3.9(3/77)
	根性焼きあり	0.0	0.0	0.0	40.5(17/42)	50.0	35.7	29.9(23/77)
	自傷痕あり	16.7	0.0	0.0	19.0(8/42)	0.0	21.4	16.9(13/77)

表2【薬物依存症回復支援施設入所者】の注射行動・性行動(%)

	ICD-10						全体
	F10	F12	F13	F15	F18	F19	
	アルコール	大麻	鎮静睡眠剤	覚せい剤等	揮発性溶剤	他剤・多剤	
	12[15.2]	5[6.3]	2[2.5]	44[55.7]	2[2.5]	14[17.7]	79 [100]
これまでに(%)							
注射経験あり	0.0	0.0	0	88.4(38/43)	0.0	0.0	48.7(38/78)
シリンジ 共用経験+	0.0	0.0	0	73.8(31/42)	0.0	0.0	40.3(31/77)
シリンジ 反復使用経験+	0.0	0.0	0	85.7(36/42)	0.0	0.0	46.8(36/77)
針の共用経験+	0.0	0.0	0	69.0(29/42)	0.0	0.0	37.7(29/77)
針の反復使用経験+	0.0	0.0	0	76.2(32/42)	0.0	0.0	41.6(32/77)
注射回数							
なし	100.0	100.0	100.0	11.6(5/43)	100.0	100.0	51.3(40/78)
1~49回	0.0	0.0	0.0	9.3(4/43)	0	0.0	5.1(4/78)
50~99回	0.0	0.0	0.0	2.3(1/43)	0	0.0	1.3(1/78)
100回以上	0.0	0.0	0.0	76.7(33/43)	0.0	0.0	42.3(33/78)
最近1年間で(%)							
注射経験あり	0.0	0.0	0.0	22.7	0.0	0.0	12.7
シリンジ 共用経験+	0.0	0.0	0.0	15.9	0.0	0.0	8.9
シリンジ 反復使用経験+	0.0	0.0	0.0	22.7	0.0	0.0	12.7
針の共用経験+	0.0	0.0	0(0/1)	13.6	0.0	0.0	7.7(6/78)
針の反復使用経験+	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	10.1
注射回数							
なし	100.0	100.0	100.0	76.7(33/43)	100.0	100.0	87.2(68/78)
1~49回	0.0	0.0	0.0	9.3(4/43)	0.0	0.0	5.1(4/78)
50~99回	0.0	0.0	0.0	2.3(1/43)	0.0	0.0	1.3(1/78)
100回以上	0.0	0.0	0.0	11.6(5/43)	0.0	0.0	6.4(5/78)
これまでに「あぶり」の経験あり(%)							
	0.0	40.0	0.0	72.7	0.0	42.9	50.6
この1年間で「あぶり」の経験あり(%)							
	0.0	0.0	0.0	20.5	0.0	14.3	13.9
この1年間でどちらが多いか?(%)							
注射	0.0	0.0	0.0	20.5	0.0	0.0	11.4
「あぶり」	0.0	20.0	0.0	9.1	0.0	21.4	10.1
同程度	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	1.3
どちらもなし	100.0	80.0	100.0	68.2	100.0	78.6	77.2
「風俗」での性接触あり(最近1年間)(%)							
なし	91.7	60.0	100.0	73.8(31/42)	100	71.4	76.6(59/77)
あり(常にコンドーム+)	8.3	20.0	0.0	9.5(4/42)	0.0	7.1	9.1(7/77)
あり(コンドーム-のことあり)	0.0	20.0	0.0	16.7(7/42)	0.0	21.4	14.3(11/77)
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり(最近1年間)(%)							
なし	75.0	40.0	100.0	75.6(31/41)	100(1/1)	64.3	72.0(54/75)
あり(常にコンドーム+)	8.3	40.0	0.0	12.2(5/41)	0(0/1)	0.0	10.7(8/75)
あり(コンドーム-のことあり)	16.7	20	0.0	12.2(5/41)	0(0/1)	35.7	17.3(13/75)
国内で外国人との性接触あり(最近1年間)(%)							
なし	91.7	40.0	100.0	85.7(36/42)	100(1/1)	78.6	82.9(63/76)
あり(常にコンドーム+)	0.0	40.0	0.0	9.5(4/42)	0(0/1)	0.0	7.9(6/76)
あり(コンドーム-のことあり)	8.3	20.0	0.0	4.8(2/42)	0(0/1)	21.4	9.2(7/76)
性接触ありの場合の相手							
「風俗」で	100(1/1)	50.0(1/2)		75.0(3/4)		0	55.6(5/9)
「風俗」以外で	0	50.0(1/2)		25.0(1/4)		50.0(1/2)	33.3(3/9)
両方で	0	0		0(0/4)		50.0(1/2)	11.1(1/9)
海外渡航歴のある者(最近1年間)(%)							
	8.3	20.0	0.0	6.8	0.0	7.1	7.6
上記のうち 海外で薬物使用のあった者							
	0.0	100.0		33.3		100.0	3.8
海外で性交渉のあった者							
	100.0	0.0		33.3		0.0	50.0

表3 【薬物依存症回復支援施設入所者】の注射経験、入れ墨と属性・血清検査・身体所見

	n=78	これまで			入れ墨	
		注射経験なし	注射経験あり		なし	あり
			1年間にはなし	1年間にもあり		
性別		40[51.3]	28[35.9]	10[12.8]	57[74.0]	20[26.0]
男		36[52.9]	23[33.8]	9[13.2]	51[75.0]	17[25.0]
女		4[40.0]	5[50.0]	1[10.0]	6[66.7]	3[33.3]
年齢						
10歳代		1[2.5]	1[3.6]	0[0]	0[0]	2[10.0]
20歳代		6[15.0]	2[7.1]	1[10.0]	9[15.8]	0[0.0]
30歳代		11[27.5]	9[32.1]	2[20.0]	16[28.1]	6[30.0]
40歳代		15[37.5]	10[35.7]	4[40.0]	19[33.3]	9[45.0]
50歳代		4[10.0]	5[17.9]	3[30.0]	9[15.8]	3[15.0]
60歳以上		3[7.5]	1[3.6]	0[0.0]	4[7.0]	0[0.0]
平均年齢±SD		41.0±11.3	41.6±10.3	42.6±8.8	41.9±10.9	40.4±9.9
現在の配偶歴						
未婚		67.5	42.9	80.0	68.4	45.0
既婚		7.5	3.6	0.0	7.0	0.0
離婚		25.0	50.0	20.0	24.6	50.0
死別		0.0	3.6	0.0	0.0	5.0
離婚歴あり		30.0	50.0	50.0	31.6	55.0
血清検査(%)						
HIV抗体陽性率		0(0/39)	0(0/27)	0.0	0(0/55)	0.0
HCV抗体陽性率		2.6(1/39)	55.6(15/27)	60.0	21.8(12/55)	45.0
HBs抗原陽性率		0(0/39)	0(0/27)	0.0	0(0/55)	0.0
HBs抗体陽性率		0(0/39)	11.5(3/26)	0.0	3.7(2/54)	5.0
HBc抗体陽性率		0(0/39)	7.4(2/27)	0.0	3.6(2/55)	0.0
TP抗体陽性率		0(0/39)	0(0/27)	0.0	0(0/55)	0.0
性病既往(自己申告)(%)						
毛ジラミ		10.3(4/39)	21.4	10.0	12.5(7/56)	20.0
淋病		10.3(4/39)	21.4	50.0	21.4(12/56)	20.0
クラミジア		15.4(6/39)	3.6	10.0	10.7(6/56)	10.0
梅毒		2.6(1/39)	0.0	0.0	1.8(1/56)	0.0
身体所見(%)						
輸血の既往あり		7.7(3/39)	32.1	30.0	16.1(9/56)	30.0
歯の著明不良あり		60.0	63.0(17/27)	33.3(3/9)	61.4(35/57)	50.0
注射痕あり		2.5	55.6(15/27)	33.3(3/9)	19.3(11/57)	40.0
入れ墨あり		12.5	37.0(10/27)	55.6(5/9)	0.0	100.0
指つめあり		2.5	3.7(1/27)	11.1(1/9)	1.8(1/57)	10.0
根性焼きあり		20.0	37.0(10/27)	55.6(5/9)	21.1(12/57)	55.0
自傷痕あり		17.5	18.5(5/27)	11.1(1/9)	17.5(10/57)	15.0

表4 【薬物依存症回復支援施設入所者】の注射経験、入れ墨と注射行動・性行動

	n=78	これまで注射経験あり			入れ墨	
		これまで注射経験なし	1年間にはなし	1年間にもあり	なし	あり
		40[51.3]	28[35.9]	10[12.8]	57[87.5]	21[12.5]
これまで (%)						
注射経験あり		0.0	100	100	38.6	76.2
シリンジ共用経験あり		0.0	81.5(22/27)	90.0	33.3	60.0(12/20)
針の共用経験あり		0.0	77.8(21/27)	80.0	31.6	55.0(11/20)
注射経験の注射回数						
なし		100.0	0.0	0.0	61.4	23.8
1～49回		0.0	10.7	10.0	3.5	9.5
50～99回		0.0	3.6	0.0	0.0	4.8
100回以上		0.0	85.7	90.0	35.1	61.9
最近1年間で (%)						
注射経験あり		0.0	0.0	100.0	8.6(5/58)	23.8
シリンジ共用経験		0.0	0.0	70.0	6.9(4/58)	14.3
針の共用経験		0.0	0.0	60.0	7.0	9.5
注射経験の注射回数						
なし		100.0	100.0	0.0	91.2	76.2
1～49回				40.0	3.5	9.5
50～99回				10.0	1.8	0.0
100回以上				50.0	3.5	14.3
これまで「あぶり」の経験あり (%)						
		32.5	60.7	90.0	44.8(26/58)	66.7
この1年間で「あぶり」の経験あり (%)						
		10.0	3.6	60.0	12.1(7/58)	19.0
この1年間でどちらが多いか? (%)						
注射		0.0	0.0	90.0	6.9(4/58)	23.8
「あぶり」		15.0	3.6	0.0	12.1(7/58)	4.8
同程度		0.0	0.0	10.0	1.7(1/58)	0.0
どちらもなし		85.0	96.4	0.0	79.3(46/58)	71.4
「風俗」での性接触あり (最近1年間) (%)						
なし		77.5	85.2(23/27)	55.6(5/9)	73.7	85.0(17/20)
あり(常にコンドーム+)		7.5	7.4(2/27)	22.2(2/9)	7.0	15.0(3/20)
あり(コンドームーのこともあり)		15.0	7.4(2/27)	22.2(2/9)	19.3	0(0/20)
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり (最近1年間) (%)						
なし		71.8(28/39)	78.6	50.0(4/8)	66.7	88.9(16/18)
あり(常にコンドーム+)		7.7(3/39)	7.1	37.5(3/8)	12.3	5.6(1/18)
あり(コンドームーのこともあり)		20.5(8/39)	14.3	12.5(1/8)	21.1	5.6(1/18)
国内で外国人との性接触あり (最近1年間) (%)						
なし		82.1(32/39)	96.4	44.4(4/9)	80.7	89.5(17/19)
あり(常にコンドーム+)		5.1(2/39)	0.0	44.4(4/9)	7.0	10.5(2/19)
あり(コンドームーのこともあり)		12.8(5/39)	3.6	11.1(1/9)	12.3	0(0/19)
性接触ありの場合の相手		n=5	n=1	n=5	n=11	n=2
「風俗」で		40.0	0.0	100(3/3)	50.0(4/8)	100(1/1)
「風俗」以外で		40.0	100.0	0(0/3)	37.5(3/8)	0(0/1)
両方で		20.0	0.0	0(0/3)	12.5(1/8)	0(0/1)
海外渡航歴のある者 (最近1年間) (%)						
		7.5	0.0	30.0	6.9(4/58)	9.5
上記のうち		n=3	n=0	n=3	n=4	n=2
渡航先で薬物使用のあった者		66.7		33.3	50.0	50.0
渡航先で性交渉のあった者		66.7		33.3	50.0	50.0

国連へのデータ		2015年の本調査参加者(重複者なし)			
国連からの要請	この調査で 答えられること	2015年	国連からの要請	この調査で 答えられること	2015年
この1年間での注射薬物使用者 (A)	分母は調べ た患者数	13/137	最も最近のセックスでコンドームを 使用した注射薬物使用者の割合	(分母)過去 1ヶ月に注射 薬物使用と 性行為を 行った者	0/0
過去1ヶ月間での注射薬物使用者 (B)	分母は調べ た患者数	2/109	最も最近の注射で清潔な器具を使 用した注射薬物使用者の割合	(分母)過去 1ヶ月に注射 薬物使用を 行った者	2/2
Aのうち、必ず清潔な注射器具を 使った者の割合		1/1 (調べられ たのは13 人中1名 のみ)	過去1年間にHIV検査を受け、その 結果を知っている注射薬物使用者 の割合		1/1
Bのうち、最も最近の注射で、清潔 な注射器具を使ったものの割合		2/2	HIVとともに生きている注射薬物使 用者の割合		・2013年 の「薬物 使用に関 する全国 住民調 査」による 覚せい剤 生涯経験 者推計値 は、 519,721 人
Aのうち、必ずコンドームを使った 者の割合	Aのうちで1 年間に性交 渉のあった 者	4/13 (3/13は1 年間で性 交渉なし。 3/13はコ ンドーム 使用せ ず。3/13 は不明)			
Bのうち、最も最近の性交渉で、コ ンドームを使った者の割合	Bのうちで1 年間に性交 渉のあった 者	1/2(1人 は性交渉 なし)			